

令和８年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率（％）		平均無解答率（％）		平均IRTスコア
			国語	数学	国語	数学	(参考)英語３技能
３ 年	学校	44	65	57	3.8	12.4	484
	大阪市	－	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	－	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

平均正答率が全国を上回っており非常に評価できる結果となった。「無回答率0」の高さが最も評価できる。学習指導要領の内容で分析すると、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」どちらもすべての項目で大阪府平均を上回った。また、「思考力・判断力・表現力等」における「読むこと」の領域では正答率65.9%で、全国平均を6.2ポイントと大幅に上回った。問題形式としては「記述式」の問題の正答率が51.5%で、こちらも全国平均を6ポイントと大幅に上回った。課題として、大阪府平均を下回っている問題が5題あり、内容としては①「漢字や語句、言葉の使い方などの国語に関する基礎知識」と②「話し合いにおける発言に関する問題」である。

<数学>

正答数は大阪府および全国より上回る素晴らしい結果となった。だが、文章題や関数および図形の証明問題などは正答率も低く、無解答率も高かった。解き方が分かりやすい基礎的な問題は解けるものの、解き方を探るような応用問題は解くのが苦手な生徒が多いように見受けられた。

<英語>

技能別平均正答数集計値において、全国と大阪府ともにわずかに下回った。「聞くこと」は全国1.2、大阪府1.1に対して、0.9であった。また、「読むこと・書くこと」は全国2.5、大阪府2.5に対して、2.3であった。平均正答数集計値において、全国と大阪府ともにわずかに下回った。全国3.7、大阪府3.7に対して、3.2であった。一人一台端末を用いてCBT方式で実施されたため、パソコン操作に不慣れであったり、慣れないテスト形式に困惑したりした生徒もいた。

今後に向けて

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

- ①漢字、語句の知識といった基礎知識の定着、語彙力を向上させ、その知識を作文や演習プリントで活用できるように指導していく。
- ②言語活動において、その効果や意図について振り返る機会を作り、改善点について検討する機会を設ける。
- ③今後も継続して「とにかく何か書く」という意識づけを行い、またその成果が結果に表れていることを伝え、生徒に自信を持たせる。

<数学>

大阪府の過去問や私立校の入試問題を中心に、またそれ以外の様々な問題にも取り組むことで、読解力や応用力を身につけて貰う。

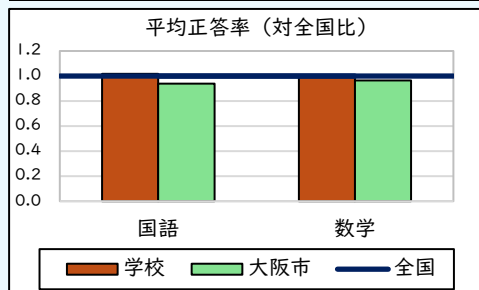
<英語>

- ・これまで同様、問題演習や小テスト等を通して、基礎基本の定着を図り、テストで活用できる知識等を身に付けさせる。
- ・デジタルドリル等を活用し、CBT方式のテストにも慣れさせる必要がある。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

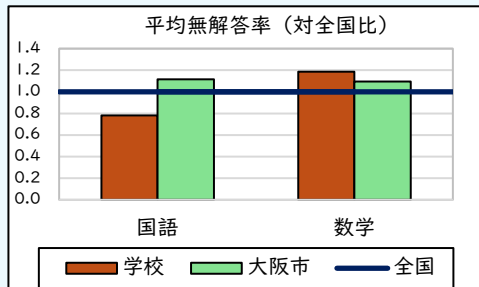
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	65	57
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



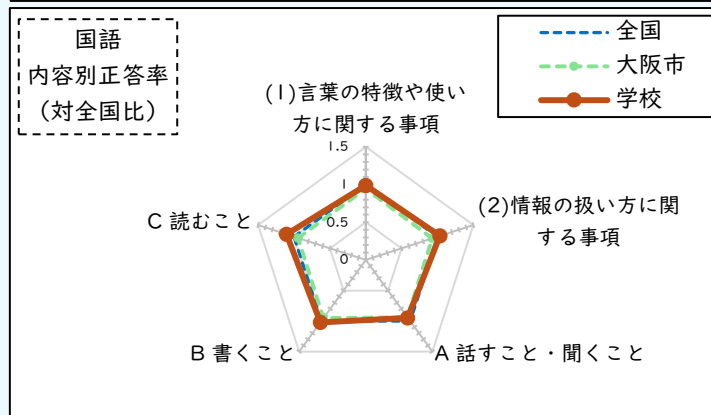
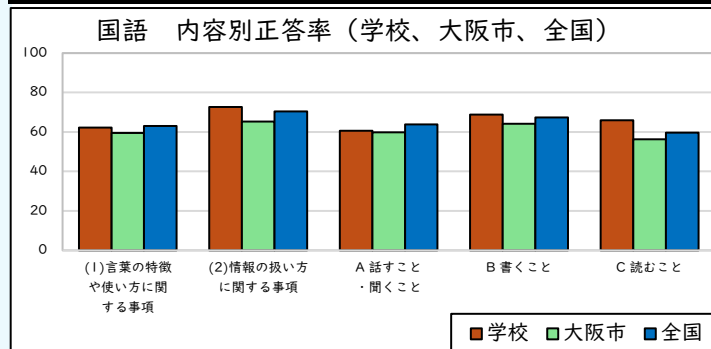
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	3.8	12.4
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



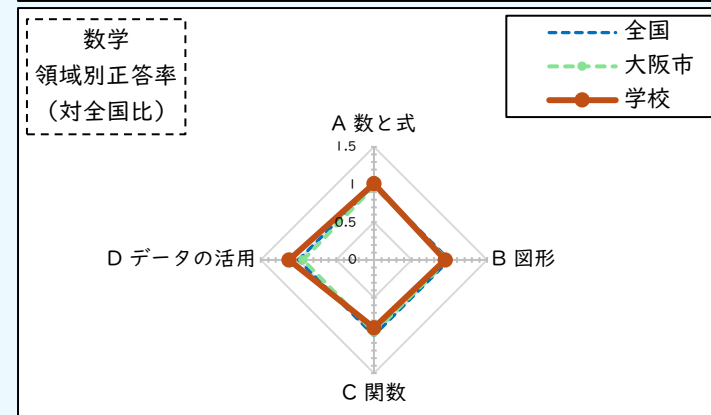
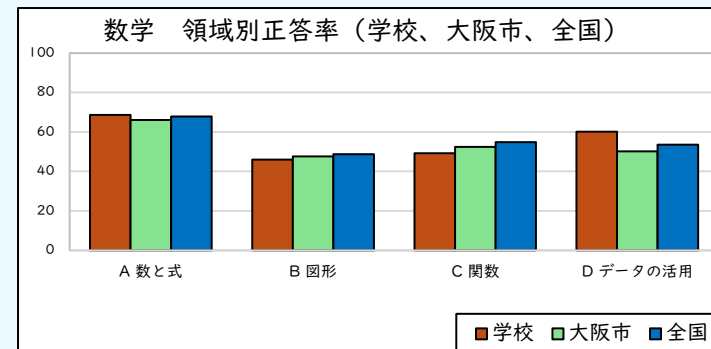
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	62.3	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	72.7	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	60.6	59.9	63.9
B 書くこと	3	68.9	64.2	67.4
C 読むこと	3	65.9	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	68.6	66.1	67.8
B 図形	4	46.0	47.6	48.7
C 関数	3	49.2	52.5	54.8
D データの活用	4	60.2	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

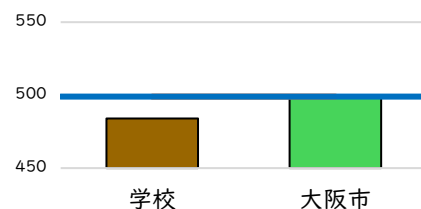
英語 平均IRTスコア

学校	484 (484)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語 4技能



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

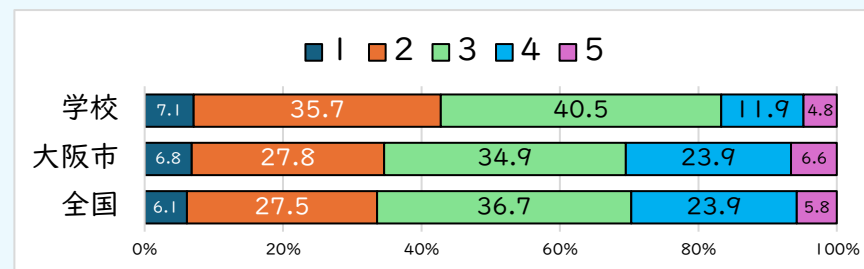
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

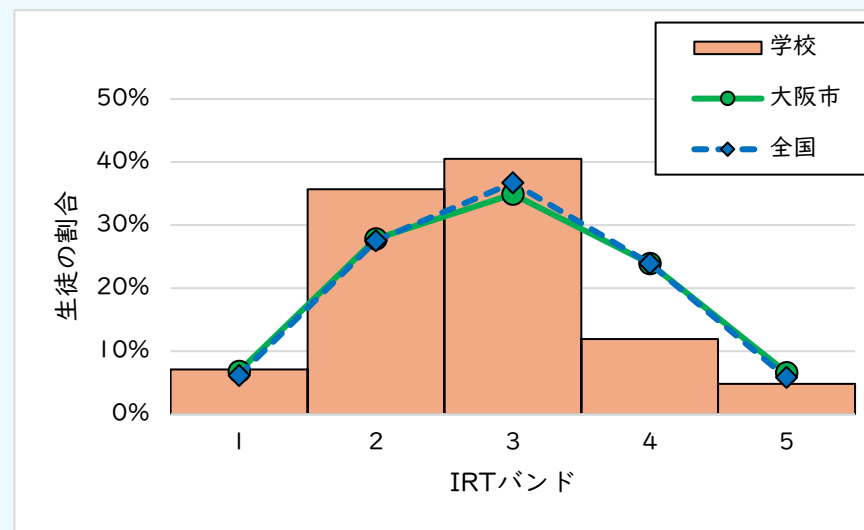
	1	2	3	4	5
学校	7.1	35.7	40.5	11.9	4.8
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



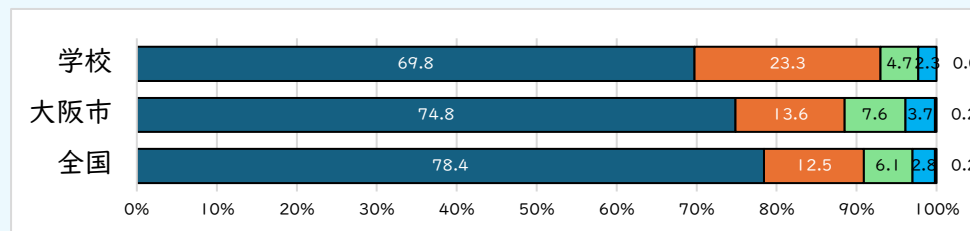
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

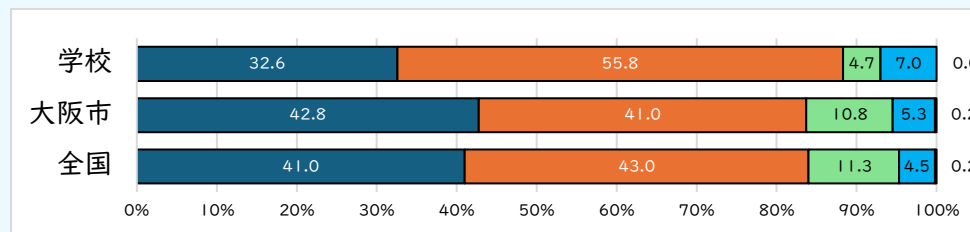
質問番号 質問事項

(1)	朝食を毎日食べていますか
-----	--------------



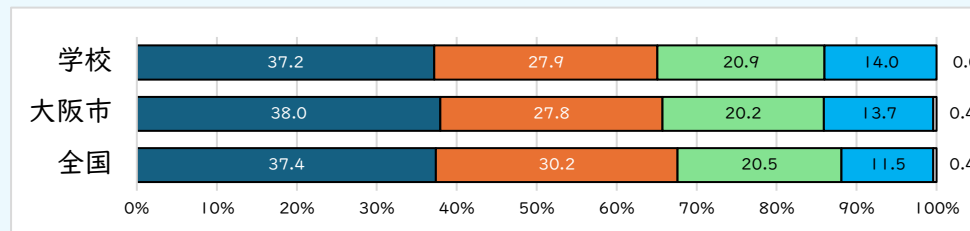
- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていません
- 4 全くしていません

(8)	自分には、よいところがあると思いますか
-----	---------------------



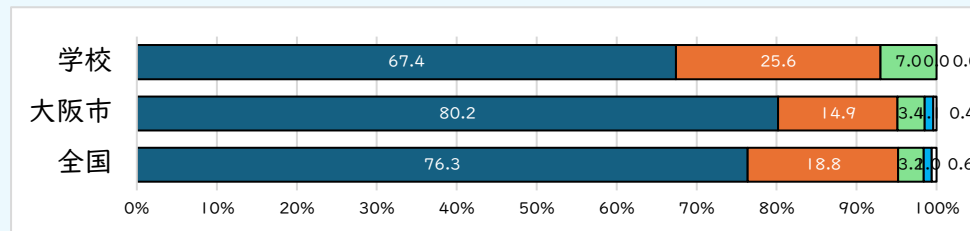
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(10)	将来の夢や目標を持っていますか
------	-----------------



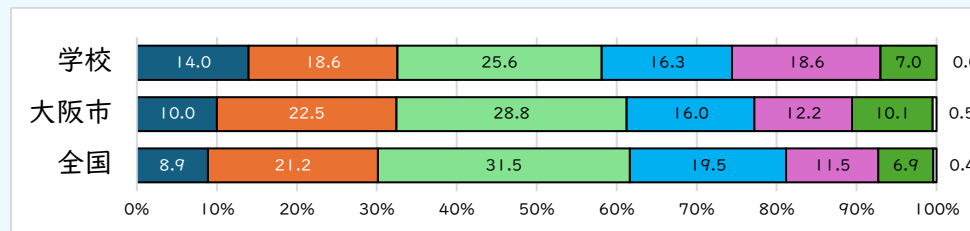
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
------	------------------------------



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
------	--



- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

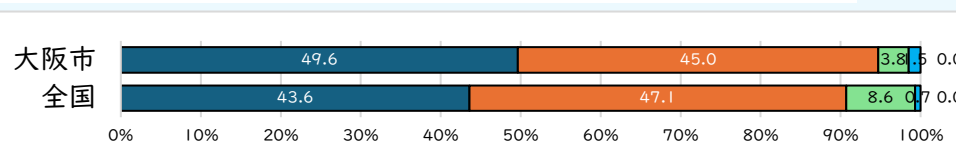
学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号 質問事項

(8)	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか
-----	-------------------------------------

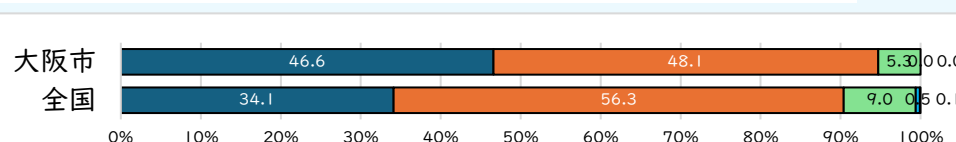
【学校の回答】 1 そう思う



- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(9)	調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか
-----	------------------------

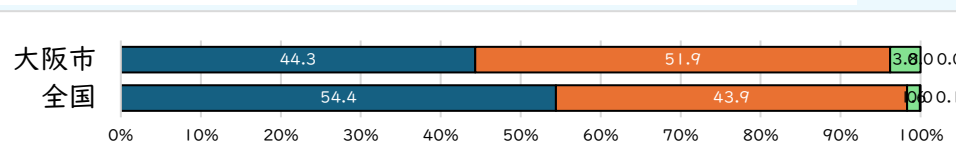
【学校の回答】 1 そう思う



- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(11)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか
------	---

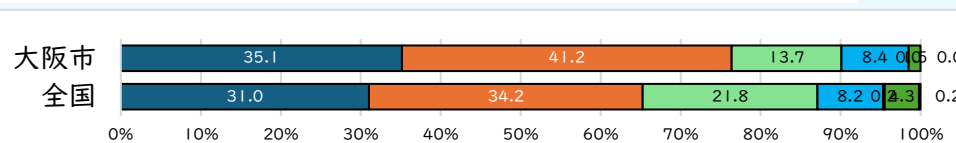
【学校の回答】 1 よく行った



- 1 よく行った
- 2 どちらかといえば、行った
- 3 あまり行わなかった
- 4 全く行わなかった

(14)	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか
------	---

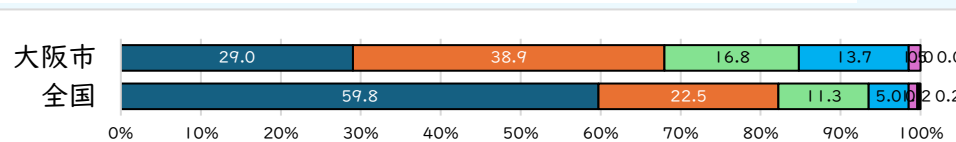
【学校の回答】 1 週1回程度、または、それ以上行った



- 1 週1回程度、または、それ以上行った
- 2 月数回程度行った
- 3 学期に数回程度行った
- 4 年数回程度行った
- 5 行わなかった
- 6 特に問題を抱えていなかった

(68)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
------	---

【学校の回答】 1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）



- 1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
- 2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
- 3 週3回以上
- 4 週1回以上
- 5 月1回以上
- 6 月1回未満